【様式：中学校１】全体計画

H21　授業改善プラン

学　校　名：	沖縄市立　美東中学校
校　長　名：	神　谷　　稔
記載者名：	井　上　　信

諸調査の結果の概要

・1，2年生では，比較可能な調査に限定するならば国語と数学に関しては市内では上位である。英語に関してはさらに取組みが必要である。
　3年生では，平成20年度全国学力調査データで，国語A，Bで約－5ポイント　数学Aで約－14ポイント，Bで－10ポイントであった。

授業改善のビジョン

・『基礎基本の習得と定着を，形成的な評価の活用で図り，さらに生徒の相互説明や教え合い活動を通して理解の広がりと学び合う雰囲気作りを図る。また，理解を深める課題を工夫し，問題解決能力を育て，授業の終末には授業評価・自己評価を工夫し次時へつなげる。』という形で取組んでいきたい。授業改善に向けて，授業研を年間で１人 3回実施 して，授業提案 等について協議し，基礎基本の定着と学習意欲を高めることに有効であるか検証する。

教師・家庭・地域の教育力を最大限に生かす学校経営力

	強み	弱み
内部環境	・指導法改善のための加配教員が2名配置されている。	・実践経験の浅い教員が各学年に配置されている。
	チャンス	**懸念**
外部環境	・沖縄市指定の学力向上対策公開授業実施校となっており，充実した内外からの支援が期待できる。	・自治会への加入率が低下し，地域の連帯感が弱くなりつつある。授業参観への参加者がおもわしくない。

授業改善のためのシステム

・自己申告項目に基づいた，「1人年間3回の授業公開」の完全実施
・夏季休業中の校内研テーマ『生徒の目が輝いた授業・実践報告会』の継続実施
・「教えて考えさせる授業」の事例報告会の実施
・教科単位の研究授業の実施
・市学対授業公開に向けての取組み
　（国語・数学・理科・英語・音楽
　　・特活・保体・技術・特･支）
　◎指導助言者による授業参観・授業研の実施

本校の重点課題

・習得，活用，探求のバランスを大切にした授業を実現する。
・教室ルールを設定して，基本的な授業態度を育成する。
・学級活動を充実させることにより，コミュニケーション能力を高める。
・遅刻０運動，あいさつ運動を年間を通して推進する。
・問題の早期発見と早期対応に努め，予防に重点を置いた生徒指導を推進する。
・教師と生徒が一緒になって清掃に取組み，美化活動に努める。

たすきをつなぐためのシステム

・一斉指導の中での，個別指導の実施
・必要に応じて，補習指導の実施
・観察・実験，レポート作成などの活動を展開して，習得した知識・技能が活用できる学習活動を充実させる
・諸学力調査結果の分析による対策のための具体案の作成・年間指導計画の見直し
・家庭学習を含めた学習習慣の確立のための取組み

家庭・地域が学校運営に参加できるシステム

1．地域による学校支援
・専門家による支援（琉球大学数学科より）
・部活動指導　（外部コーチ ）

2．家庭における取組み
・基本的生活習慣の確立の徹底
　（あいさつ，早寝・早起き・朝ごはん
　　時間の厳守・家庭学習）
・授業参観への参加
　（日曜参観日の設定，平日は終日の設定）
・学年行事への参加
　（親子作業，レク大会の実施）

学習を支える力を育成するための一事徹底

①家庭学習の習慣化：家庭学習帳の提出･点検活動による取組みを行う。
　特に，土日の学習時間の確保を重点的に取組む。　**【一時徹底】**
②学習用具の準備の習慣化：点検表を活用するなど，具体的に取組む。
③ベルとともに着席する習慣化：開始・終了をしっかりと守ることができる生徒の育成
④重点事項のご家庭への周知：保護者の方々の来校の機会を多くすることや，通信の活用により周知のチャンスを多くする取組みを行う。

学ぶことと将来の夢をつなぐシステム

・「総合的な学習の時間」や「特別活動」の時間に，学年の実態に応じた進路学習を行い，段階的に将来に向けた夢の実現のための支援を行う。
（1年生の保護者の職場から学ぶ，2年生の保護者の職場を中心にした5日間の職場体験の実施，および次年度に向けての高等学校調べのスタート，3年生での将来の職業を見据えた進路・進学指導を年次計画で実施する。）

教育課程編成	・標準授業時数の確保のために行事の精選を行う。（定期テストの午後の授業実施や土曜日の出校の代休を平日の午後のみにするなど） ・生徒の実態を踏まえた，選択教科の運用方法の工夫を行う。
校内研修	テーマ：学習意欲を高めるための指導と評価の工夫 ～「教えて考えさせる授業」の創造をめざして～ 運営方法　(1) 研修の取り組みを検証するために教科毎に授業研究会を年間で1人3回行う。 (2) 全職員参加の授業研究会を実施し，成果や課題を全職員で検討する。
学校運営	・教育課程全般の見直しを行い，授業時数の確保に努めてさらに予備時数を多くする。　並行して，一斉指導の中で実施可能な「個に応じた指導」の事例を実践の中から持ち寄り研修を行う必要がある。　各教科指導に関しては，教科部会の分析・考察を待ちたい。
生徒の状況	・教科指導に関しては，上記と同様に教科部会の分析・考察を待ちたい。　規範意識は，教室ルールをはじめとする各係活動の徹底などを点検する機会を多くすることで，さらに身に付けさせたい。　生活習慣や学習習慣に関しては，生徒への指導に加えてご家庭へも授業参観・家庭訪問・三者面談・保健室だより などの機会を活用して周知･徹底させたい。
小中連携	･ブロック学対を実施していた年度の取組み内容のよさも取入れながら，可能な範囲で小学校との情報交換の機会を設けることで，それぞれの課題を確認して「つなぐ必要のある”たすき”」の共有化を図る。 学年度末の情報交換会に留まらず，必要に応じて機会を設けるなどの工夫が求められる。

教科・領域	各教科領域における重点的な取組
国語	・読み書きなどの基本的な力を定着させた上で，記録･説明･論述･討論といった言語活動の充実を図る
社会	・ワークショップ型の授業を取り入れることで，生徒が積極的に参加･活動する態度を養い，社会的な事象を多面的に考えようとする主体的な学びの力を育てる
数学	・基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着のために，系統性を重視した指導を行う
理科	・科学的な視点を身に付けさせるため，身近な教材を使った実験・観察をおこなう
英語	・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域において，基礎的・基本的な定着を図り生徒が主体的に参加し互いに学びあえる授業の創造をめざす
音楽	・共通事項（音色，リズム速度など）をさらに意識的にとらえ感じさせる授業　　・和楽器（郷土楽器）の演奏に取組む
美術	・自発的に取組む表現の指導と工夫
保健体育	・基礎･基本の徹底　　・個人カードの活用 ・集団行動の徹底（3秒礼，身なり）・体力向上（月1回の持久走）
技術	・生徒の学習意欲を高めるための教材･教具の工夫
家庭科	・体験的な活動を多く取り入れた生活に必要な基礎的･基本的な知識および技術の習得
総合的な学習の時間	・発表する力，学習計画を立てる力，内容を分析する力等を育成する
道徳	・相手の個性や立場を重んじ，広い心を養う
特別活動	・集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図る